

### 3 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

地域の特性に応じ、バランスのとれた計画を策定し海岸の保全を進めていくために、ゾーン区分を行い、各ゾーンにおける方向性を示す。



図- 3.1 ゾーン区分及びゾーンのテーマ

## A 北オホーツクゾーン

### 【ゾーンのテーマ】

豊かな自然環境・生態系の保全

防護面の特性 : 海岸侵食が生じている。

環境面の特性 : 北オホーツク道立自然公園に指定されている。エサヌカ原生花園等の原生花園があり貴重な動植物の生息・生育環境になっている。

利用面の特性 : 釣り利用が行われている。釣り人による車の乗り入れやゴミの散乱が生じている。



自然海浜（猿払村）



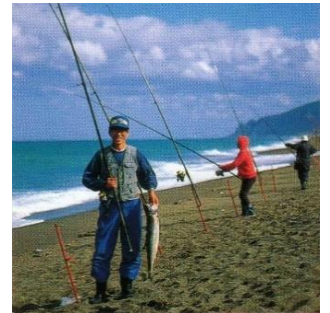
ベニヤ原生花園



さるふつ公園



クッチャロ湖



サケ釣り

### 【ゾーンの方向性】

防護面 : 美しい景観、優れた自然環境に十分配慮し、より高質で安全な海岸整備を行う。

環境面 : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

## B 枝幸・雄武・興部ゾーン

### 【ゾーンのテーマ】

#### 波浪に対する安全性の確保

防護面の特性 : 波浪による越波被害や一部では海岸侵食が生じている。

環境面の特性 : 藻場、干潟が分布している。

岩礁と砂浜が交互に続く景観が特色である。漂着流木による自然環境への影響が懸念されている。

利用面の特性 : 海水浴、釣り利用が行われている。釣り人よる車の乗り入れや地域住民とのトラブルが生じている。

岩礁域では防氷堤が整備され、流氷による水産資源の被害を防いでいる。



越波状況



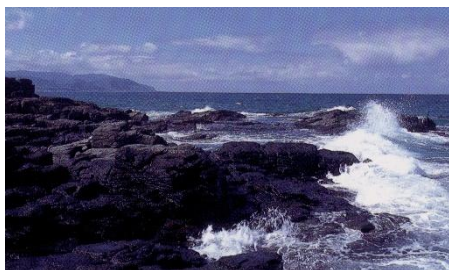
日の出岬



神威岬



流木の漂着



ウスタイベ千畳岩



沙留海水浴場



沙留海岸の防氷堤

### 【ゾーンの方向性】

防護面 : 施設の新設及び既存施設の効果維持を図る。

環境面 : 現存する藻場・干潟、海浜植生等の動植物の生息・生育環境に配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

## C 紋別・能取ゾーン

### 【ゾーンのテーマ】

#### 砂浜の保全

- 防護面の特性 : 土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。
- 環境面の特性 : 網走国定公園に指定され多くの原生花園がある。特にサロマ湖、能取湖、シブノツナイ湖、コムケ湖等の多くの海跡湖がある地域である。  
なだらかな砂浜の景観が続く。
- 利用面の特性 : 海水浴場が2箇所開設されている。特にところ常南ビーチは沿岸最大の入込数を誇っている。釣り人が多く車の乗り入れが生じている。



侵食状況



ゴミの散乱



ワッカ原生花園



オホーツクホワイトビーチ



常南ビーチ（北見市）

### 【ゾーンの方向性】

- 防護面 : 緊急性を要する地域については、早急に海岸保全施設の整備を行う。  
広域的な海岸侵食に関する調査研究により土砂収支の定量的な把握及び侵食原因を解明する。
- 環境面 : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。
- 利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

## D 小清水ゾーン

### 【ゾーンのテーマ】

砂浜や海浜植生等の豊かな自然環境の保全

防護面の特性 : 土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。

環境面の特性 : 網走国定公園に指定され、北海道の名勝に指定されている小清水海岸がある。  
特定植物群落に指定されている小清水原生花園、以久科原生花園などがある。

利用面の特性 : 釣り、観光を目的として多くの人々が訪れている。釣り人によるゴミの散乱や車の乗り入れ等の問題が生じている。



侵食状況



小清水海岸



能取岬



斜里海岸草原群落



流水観光船



蜂浜海岸

### 【ゾーンの方向性】

防護面 : 緊急性を要する地域については、早急に海岸保全施設の整備を行う。  
広域的な海岸侵食に関する調査研究により土砂収支の定量的な把握及び侵食原因を解明する。

環境面 : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

## E 知床半島ゾーン

### 【ゾーンのテーマ】

#### 優れた自然環境の維持

防護面の特性 : 特に問題は生じていない。

環境面の特性 : 知床国立公園は世界遺産に登録され、自然のままの海岸景観が残されている。  
また、貴重な動植物の生息・生育環境となっている。

利用面の特性 : 北部は前人未踏の地であり、一部でシーカヤック、ダイビング、漁業利用が行われているほかはほとんど利用されていない。南部は道路利用が主である。



知床岬



オロンコ岩



オオワシ



プユニ岬



道路利用

### 【ゾーンの方向性】

防護面 : 現況の施設の効果維持を図り、基本的に新規整備は行わない。

環境面 : 貴重な動植物が生息・生育する自然環境に十分配慮する。

利用面 : 地域と連携してモラル向上を図るための活動を支援する。

## 将来の気候変動を見据えた防護水準の設定と運用

「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方」提言（令和2年7月）を踏まえ、海岸保全を、過去のデータに基づきつつ気候変動による影響を明示的に考慮した対策へ転換するために、令和2年11月に海岸保全基本方針が変更された。

この基本方針の変更を受け、本計画では将来の気候変動を見据えた海岸保全施設の整備へ転換することとする。

ただし、気候変動予測は不確実性を有することから、今後の気候変動予測に関する知見の充実と潮位や波浪等の現地観測データの蓄積に応じて、定期的に防護水準の点検・更新が必要となる。

### 対象とする気温上昇シナリオ

令和3年8月には「気候変動の影響を踏まえた海岸保全施設の計画外力の設定方法等について」が通知され、その中では2℃上昇相当シナリオを基本とする方向性が示された。

これを受け、本基本計画の気温変化については、2℃上昇相当（SSP1-2.6）における将来予測値を基本とする。

### 天文潮位(海面上昇)

海面上昇は21世紀末以降も継続する見通しであることを勘案し、2℃上昇シナリオの平均値を採用する。

2090年時点の海面上昇量予測における2℃上昇シナリオの平均値として+40cmとする。

### 波浪・潮位偏差

2℃上昇シナリオの平均的な値(将来変化率)を採用する。変化率を現行の沖波および潮位偏差に乗じた値を防護水準(設計条件)とし今後、定期的に沖波の点検と見直しを行う。

### 津波

津波に関しては気候変動の影響を直接的に受ける現象では無い。ただし、海面上昇に伴い沿岸地域の津波高が変化するため、この影響を踏まえた設計津波水位を設定する。

## 防護水準

高潮や越波等による浸水被害の防護については、過去に発生した高潮の記録に基づく既往最高潮位に、適切に推算した波浪の影響を加えて、さらに 2090 年時点における気候変動に伴う外力変化に対応することを目標とする。防護水準は、対象海岸の背後状況や地域ニーズに応じて海岸管理者が適切に設定することとし、地域住民と一体となったソフト面での対策等を図ることにより、総合的な防護を図るものとする。

侵食による被害の防護については、侵食の進行している海岸では現状の汀線を保全・維持することを基本的な目標とするが、侵食が著しく背後地に被害が生じる可能性が高い場合や、砂浜による消波機能を考慮した面的防護を必要とする場合には、必要に応じて汀線の回復を図ることを目標とする。

津波による浸水被害の防護については、学識経験者等からなる「北海道沿岸の設計津波水位検討委員会」により設定した「海岸保全施設等の設計に用いる津波の水位」を対象に 2090 年時点での海面上昇量を加味した津波水位から防護することを目標とする。

北見沿岸における防護水準は、表-3.1、表-3.2 のとおりとする。

今回変更

気候変動の影響を踏まえた防護水準

防護水準 R7 潮位改訂

防護水準 現行 海岸基本計画

町村名	ゾーン名	防護水準		侵食
		潮位	波浪 (Ho(波高), To (期間))	
椎内市	北 オ ホ イ ソ ク	計画高潮位 T.P.+1.9m (D.L.+2.2m)	Ho=7.9~8.8m To=12.4~13.0s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
猿払村				
浜頓別町	枝 幸 ・ 雄 武 ・ 興 部	計画高潮位 T.P.+2.0m (D.L.+2.5m)	Ho=8.8~9.6m To=13.0~13.9s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
枝幸町				
雄武町	枝 幸 ・ 雄 武 ・ 興 部		Ho=8.8~9.6m To=13.0~13.9s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
興部町				
紋別市	紋 別 ・ 能 取	計画高潮位 T.P.+1.9m (D.L.+2.6m)	Ho=10.3~10.7m To=13.9~14.0s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
紋別市				
網走市	小 溝 水	Ho=10.3~10.7m To=13.9~14.0s	Ho=10.3~10.7m To=13.9~14.0s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
網走市				
小清水町	半 知 島 床	Ho=10.3~10.7m To=13.9~14.0s	Ho=10.3~10.7m To=13.9~14.0s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
小清水町				
斜里町	半 知 島 床	Ho=10.2m To=13.5s	Ho=10.2m To=13.5s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
斜里町				

町村名	ゾーン名	防護水準		侵食
		潮位	波浪 (Ho(波高), To (期間))	
椎内市	北 オ ホ イ ソ ク	計画高潮位 T.P.+1.5m (D.L.+1.8m)	Ho=7.7~8.5m To=12.2~12.8s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
猿払村				
浜頓別町	枝 幸 ・ 雄 武 ・ 興 部	計画高潮位 T.P.+1.6m (D.L.+2.1m)	Ho=8.5~9.3m To=12.8~13.7s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
枝幸町				
雄武町	枝 幸 ・ 雄 武 ・ 興 部		Ho=8.5~9.3m To=12.8~13.7s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
興部町				
紋別市	紋 別 ・ 能 取	計画高潮位 T.P.+1.5m (D.L.+2.2m)	Ho=10.0~10.4m To=13.7~13.8s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
紋別市				
網走市	小 溝 水	Ho=10.0~10.4m To=13.7~13.8s	Ho=10.0~10.4m To=13.7~13.8s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
網走市				
小清水町	半 知 島 床	Ho=10.0~10.4m To=13.7~13.8s	Ho=10.0~10.4m To=13.7~13.8s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
小清水町				
斜里町	半 知 島 床	Ho=9.9m To=13.3s	Ho=9.9m To=13.3s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
斜里町				

町村名	ゾーン名	防護水準		侵食
		潮位	波浪 (Ho(波高), To (期間))	
椎内市	北 オ ホ イ ソ ク	計画高潮位 T.P.+1.3m (D.L.+1.6m)	Ho=7.7m~8.8m To=11.6s~12.4s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
猿払村				
浜頓別町	枝 幸 ・ 雄 武 ・ 興 部	計画高潮位 T.P.+1.4m (D.L.+1.9m)	Ho=8.6m~9.9m To=12.3s~13.2s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
枝幸町				
雄武町	枝 幸 ・ 雄 武 ・ 興 部		Ho=8.6m~9.9m To=12.3s~13.2s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
興部町				
紋別市	紋 別 ・ 能 取	計画高潮位 T.P.+1.4m (D.L.+2.1m)	Ho=10.0m~10.7m To=13.3s~13.6s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
紋別市				
網走市	小 溝 水	Ho=10.0m~10.7m To=13.3s~13.6s	Ho=10.0m~10.7m To=13.3s~13.6s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
網走市				
小清水町	半 知 島 床	Ho=10.0m~10.7m To=13.3s~13.6s	Ho=10.0m~10.7m To=13.3s~13.6s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
小清水町				
斜里町	半 知 島 床	Ho=10.0m To=13.5s	Ho=10.0m To=13.5s	現状の汀線 維持もしくは は必要に 応じた汀線の 回復
斜里町				

表-3.1 防護水準(高潮)

現行

設計津波水位

No	振興局	海岸名	箇所名	対象津波	設計津波水位 (T.P+m)
1	1 宗谷総合	稚内海岸（東浦地区～大岬地区宗谷岬）	稚内市	（推定）青森県西方沖地震津波	+1.5

※設計津波水位については稚内市のみ公表

海岸堤防等の高さは、今後、設計津波水位と低気圧等による高潮・高波に対する必要高を比較のうえ、海岸の機能の多様性への配慮、環境保全、周辺景観との調和、経済性、維持管理の容易性、施工性、公衆の利用等を総合的に考慮する。

今回変更

設計津波水位

No	振興局	海岸名	箇所名	対象津波	設計津波水位 (T.P+m)
01	宗谷総合	稚内市（宗谷岬）～稚内市（東浦漁港北側崖）	稚内市	F17	+2.6
02	宗谷総合	稚内市（東浦漁港北側崖）～浜頓別町・枝幸町町界（ピリカノノカ神威岬）	稚内市・猿払・浜頓別	F11	+1.8
03	宗谷総合	浜頓別町・枝幸町町界（ピリカノノカ神威岬）～雄武町（日の出岬）	枝幸・雄武	F14	+2.8
04	オホーツク総合振興局	雄武町（日の出岬）～サロマ湖（第一湖口）	雄武・紋別・湧別	千島列島東方沖	+2.3
05	オホーツク総合振興局	サロマ湖（第一湖口）～網走市（能取岬）	北見・網走 ※サロマ湖内は含まない	千島列島東方沖	+1.7
06	オホーツク総合振興局	網走市（能取岬）～斜里町（知布泊南崖地形）	網走・小清水・斜里	色丹島沖	+1.8
07	オホーツク総合振興局	斜里町（知布泊南崖地形）～斜里町（知床岬）	斜里	色丹島沖	+2.5

表-3.2 防護水準(津波)

## 4 北見沿岸の基本理念、基本方針

### 4.1 基本理念

北見沿岸における海岸保全の方向性を検討するにあたり、沿岸域への対応及びその保全についての「基本理念」を以下のように設定する。

#### <基本理念>

北見沿岸は北海道東部に位置し、知床国立公園および網走国定公園、北オホーツク道立自然公園、クッチャロ湖、サロマ湖などの湖沼群や流水が訪れるオホーツク海などすぐれた自然に恵まれている。海岸線はなだらかに砂浜が続き、背後には多くの原生花園が存在している。海域には、藻場・干潟が分布し、生物の生息・生育環境になっている。

当沿岸はオホーツク海からの流水により1月から3月までの約3ヶ月間氷に閉ざされる海域である。オホーツク海は水産資源に恵まれ、基幹産業であるホタテ養殖漁業の漁場となっているほか、冬季には流水を活用した流水ダイビング等のレクリエーションの場ともなっている。

また、恵まれた自然環境は地域の人々の憩いの場、安らぎの場、釣り等の海洋性レクリエーションの場として利用されているほか、観光資源としても活用されている。

このように沿岸は地域住民にとって様々な恵みを与える場として貴重な空間である。

しかし、当沿岸は、現在も波浪による越波被害が後を絶たないほか、土砂収支の不均衡による海岸侵食により砂浜が減少し、背後の原生花園等への影響も危惧されている。また、海岸線はサケ釣り利用が行われているが、利用者のゴミの投棄により環境への悪影響が懸念される状況にある。

北見沿岸のあるべき姿とは、波浪及び海岸侵食等の自然災害からの安全性を確保し、恵まれた自然環境、景観の保全に努め、誰もが楽しく親しみを持つことのできる海岸であると考えている。



#### <テーマ>

きれいで たのしく みな安全

流水の訪れる きたみ沿岸

～ オホーツク海とともに生きる  
安全で自然豊かな潤いある海岸 ～

## 4.2 基本方針

前項の基本理念及びテーマをうけ、保全に関する基本方針を以下のように設定する。

### <基本方針>

#### ◎ 安全な海岸づくり

波浪による越波や海岸侵食から背後の生命、資産、自然環境を守り、人々が安心して暮らせる海岸づくりを推進する。

#### ◎ 恵まれた自然環境と共生する海岸づくり

貴重な動植物が生息・生育する自然環境や景観、藻場・干潟を保全するとともに、海岸共生意識の啓発活動を行い、自然環境教育、学習体験の場として次世代へ良好な海岸空間を継承する。

#### ◎ 海とふれあいやすらげる海岸づくり

地域住民にとって憩いの場、交流の場である海岸へのアクセスの確保、高齢者、障害者に配慮した施設のバリアフリー化を行い、誰もが自然に親しみふれあうことのできる場としての海岸づくりを推進する。

#### ◎ 地域の特色を活かした海岸づくり

流水や自然公園などの雄大で恵まれた自然を活かし、漁業及び観光等の地域産業の発展と連携した海岸づくりを推進する。